



公害資料館連携フォーラム in 福島 2023 プレ企画 トークセッション「福島の経験を継承する」 & 浜通り現地見学

2023年度に福島で開催する公害資料館連携フォーラムの
プレイベントとして、福島県でトークセッションと
現地見学会を行いました。

2023年1月21・22日 主催：公害資料館ネットワーク
協力：地球環境パートナーシッププラザ (GEOC)

記録作成：小橋 伸一（大阪公立大学大学院生）

プレ企画報告

2023年度、福島県で予定している「公害資料館連携フォーラム」のプレ企画を1月21日・22日に行いました。公害経験をどう未来につなぐか、公害と同じ社会的災害に属する原発事故・原子力災害の経験継承の取り組みを踏まえて考える機会としました。

21日は、原子力災害考証館 furusato が開設されている、いわき市の温泉旅館・古滝屋を会場に、それぞれの立場で原発事故・原子力災害の経験継承に取り組む方々をお招きしてトークセッションを行いました。参加者は53名（オンライン：138名）で、会場は立ち見の方が出るほどの満員でした。

22日はバス移動で現地見学を行いました。脱炭素社会に向けて、エネルギー政策の大きな転換期を迎えている現在、炭鉱開発が行われたいわき市の歴史を改めて学ぶべく、産業遺産の見学から開始しました。その後、双葉郡にある伝承施設、とみおかアーカイブ・ミュージアムと東日本大震災・原子力災害伝承館を見学しました。参加者は38名で、タイトなスケジュールの中、密度の高い学びとなりました。



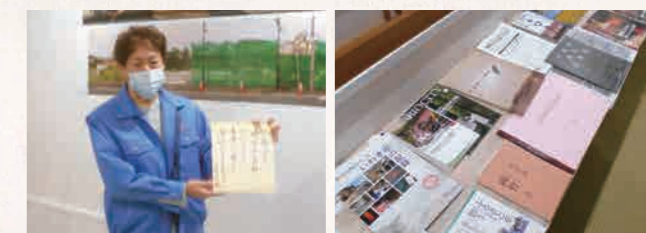
1日目

見学会「原子力災害考証館 furusato」

原子力災害考証館 furusato は、今回のプレ企画の会場にも使われた温泉旅館「古滝屋」16代目の現当主、里見喜生さんが、館内の宴会場を改装して2021年3月12日に開設しました。トークセッション終了後、希望者を対象に、里見さんによる説明を交えた見学会が行われました。

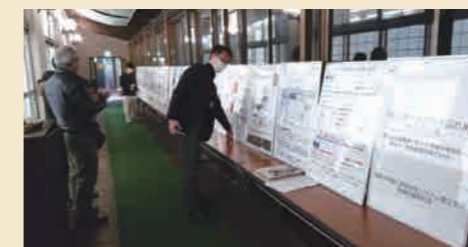
考証館は「復興」のかけ声にかき消されがちな、当事者の「声なき声」の発信と、多様な人々による立場を超えた対話を目指しています。

見学会では、大熊町の津波被害で長い間行方不明だった少女の遺品や写真（※後述の木村紀夫さん所蔵資料）、建物の解体が進む浪江町への想いを地元出身の歌人が記した短歌、浪江町にある商店街の風景が変化していく様子が見られるパノラマ写真、原発事故の集団訴訟関連の資料などが紹介されました。



福島大学・後藤忍 環境計画研究室による企画展示

福島大学の後藤ゼミが作成したパネルがトークセッション会場の入口に展示されました。タイトルは『"減思力"の教訓を学ぶためのパネル展—東京電力福島第一原子力発電所事故前後の原子力・放射線教材等の記録—』です。



当日は教員・学生が現場で解説も行いました。

「減思力」とは、原子力発電の環境リスクについて安全性が過度に強調されるなど、国民の公正な判断力が低下させられてきたのではないかと教訓を表す造語です。

パネルでは、行政が学校等の教材として、原発事故前後に発行した原子力・放射線副読本を対象に、記述内容やその変化を検証しています。国の負担でつくり、今回の現地見学会先でもある東日本大震災・原子力災害伝承館の展示についても触れられていました。